

**令和3年第7回周南市議会定例会一般質問通告一覧表**  
(令和3年9月2日～9月7日)

---

**1 友田秀明（周南市民の会）**

**1 新教育長の教育理念について**

- (1) 教育長としての基本的な考えを聞く。
- (2) 最初に取り組みたいことは何か。

**2 本市のシティープロモーションについて**

- (1) 昨年4月シティネットワーク推進部が創設され、1年が経過したが、成果はどうか。まだまだ本市の全国的知名度は十分とは言えないと思うが、徳山駅を周南駅へと名称変更する考えはあるか。
  - (2) 市内の観光事業の見直しが必要ではないか。一過性の祭り等の開催だけでは市外からの誘客には限りがある。今ある眠っている観光資源を掘り起こすことに取り組んではどうか。
  - (3) 本市の文化、芸術の振興をより一層推進していくことがシティープロモーションに大きく寄与すると思うが、どうか。
- 

**2 遠藤伸一（公明党）**

**1 大雨による被害について**

- (1) 令和3年7月9日に発生した大雨による被害の状況と今後の対策について、以下を問う。
  - ア 被害の状況は。また、原因の調査・分析は。
  - イ インフラ施設の点検、更新整備の必要性について見解を問う。
  - ウ 通学時間帯に被害発生が想定される場合、児童生徒の安全を確保するための体制は。

**2 消費生活について**

- (1) 消費者被害防止の取組について、以下を問う。
  - ア 相談件数の推移及び相談内容の傾向は。
  - イ 周南市消費者見守りネットワーク協議会の活動状況は。
  - ウ 若年層に対する消費者教育の推進の状況は。

**3 空き家対策について**

- (1) 空き家の現状と利活用の促進について、以下を問う。
    - ア 住宅総数に対する空き家数の割合及びその推移は。
    - イ 周南市空き家情報バンクの登録戸数と活用状況は。
    - ウ 今後の空き家対策の方向性は。
- 

**3 田中 昭（周南市民の会）**

**1 望ましい教育環境の充実・整備について**

- (1) 小中学校における教育環境整備について、本年度の整備状況と今後の主な計画を問う。
- (2) 義務教育において、個人が負担している学習のための副教材に対し、支援はできないか。

## 2 子供・子育て支援について

- (1) 幼児教育・保育の無償化後の本市の教育・保育施設の入園・入所状況はどうか。
  - (2) 5歳児の幼児教育について、本市の特色ある教育活動は何か。
- 

## 4 山本真吾（アクティブ）

### 1 不登校児童生徒の現状とその支援等について

- (1) 本市の小中学校の不登校児童生徒の現状や支援等について、以下を問う。
  - ア 不登校児童生徒のその人数と割合は。
  - イ 不登校を未然に防ぐための取組は。
  - ウ 義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律を教育長はどのように捉えているか。
  - エ 教育支援センターの体制はどのようになっているか。現在何名の児童生徒が利用しているか。
  - オ フリースクールを利用するという選択肢もあるが、利用者等についてはどの程度把握しているか。
  - カ 教育支援センターもフリースクールも利用しない不登校児童生徒に対してはICTを利活用した教育が有効と考えるがどうか。

### 2 学校での新型コロナウイルス感染症対策について

- (1) コロナ禍で子供たちの学びを止めないための小中学校での感染防止対策として、非接触型自動水栓について、以下を問う。
    - ア 本市におけるトイレの手洗い場と廊下の手洗い場、それぞれの非接触型自動水栓の割合は。
    - イ 非接触型自動水栓導入についての考えは。
- 

## 5 篠田裕二郎（周南市民の会）

### 1 防災対策について

- (1) 令和3年7月9日の大雨では、家屋の浸水被害や、道路の冠水により車が走行不能になる事態が起こった。また、児童や生徒の通学時間帯に発生したため、危険な状況であった。そこで、以下を問う。
  - ア 被害が大きくなった原因を分析しているか。
  - イ 冠水被害が起きた場所について、今後の対策は。また、市が管理していない道路等について、どのような取組を行うのか。
  - ウ 児童生徒の通学時間帯であったが、大雨時等における対応、保護者への連絡体制はどうなっているのか。
- (2) 避難情報について、市民に十分な説明はされているのか。
- (3) 水道管の耐震化整備は、どのような計画となっているのか。また、整備の優先順位はどのように決めているのか。

### 2 水素エネルギー活用に向けた取組について

- (1) 脱炭素社会に向けた本市のこれまでの取組と今後の課題は。
- 

## 6 小林正樹（志高会）

### 1 より充実した選挙の実施に向けて

- (1) 近年の投票率低下という大きな社会問題をどのように捉えているのか。また、その問題を解決するための改善策はあるのか。
- (2) 立候補者の選挙運動の在り方について、以下を問う。
- ア 運動用ビラの効果は検証できているのか。
  - イ ポスター掲示場箇所数は適正か。
  - ウ 各日の選挙運動終了時刻が20時だが、今の時代にふさわしいものか。
- (3) 幅広い年代の声を市政に反映させるために、選挙制度の日々の見直しや、投票率の底上げへの取組が常に必要であると考え、以下を問う。
- ア 18歳・19歳の投票状況と分析はできているのか。
  - イ 期日前投票所拡充の予定時期はいつか。
  - ウ 移動投票所の必要性について、どのように考えているのか。
  - エ 若年層が社会や政治に関心を持つよう、投票立会人に若い有権者である学生を任命してはどうか。

### 2 インターネット上の誹謗中傷等への対策について

- (1) 被害者の心身に深い闇を落とすことであり、被害者の自裁や精神疾患発症などを未然に防ぐ観点からも、早急に取り組むべき事案だと考えるが、この問題についてどのように考えており、また、対策を講じているか。
- (2) 子供たちを守るための対策について、以下を問う。
- ア SNS等の普及・拡大により、ネットトラブルに巻き込まれやすくなっていると思われるが、このことについて、どのように考えているか。
  - イ 匿名性が持つ危険性、一方通行の発信による誤解の誘発、デジタルタトゥー等、インターネットを使用することで生まれるリスクやその対策方法等については、学校教育の現場で伝えていくべきだと考えるが、現状はどうか。
- (3) 他県・他市においては、防止のために条例を制定しているところも見られる。このような条例制定の必要性に対する本市の考えは、どうか。

### 3 乳幼児を取り巻く環境について

- (1) 新型コロナウイルス感染症の蔓延期における影響について、以下を問う。
- ア 厚生労働省が保育所での感染防止強化策の指針を年末までに打ち出す方針だが、それまでの空白期間を大変危惧している。本市の当該施設への助言や指示はどのように行うのか。
  - イ 保育施設の関係者から不安の声はどの程度届いているか。また、その声に対してどのように応えているか。
- (2) その他の感染症防止対策はどうか。
-

## 7 吉安新太（志高会）

### 1 登下校時の児童生徒の安全確保について

- (1) 本年6月28日に千葉県八街市において、大型貨物車が下校途中の児童5人に衝突する事故が発生した。これを受け、通学路の安全点検を全国で進める動きがあるが、本市の実施状況は。
- (2) 今年度、通学路の交通安全上、危険性が高い箇所は何か所報告されているか。
- (3) 今後、それらの危険箇所をどのように改善していくのか。

### 2 本市の水害、土砂災害対応について

- (1) 本年7月3日に静岡県熱海市において、大規模な土石流が発生し、甚大な被害をもたらした。このような災害は本市でも起きる可能性があると思う。災害の危険性がある場合、土砂災害警戒区域及び洪水浸水想定区域に住んでいる方は、具体的にどのような対応をすべきか。
- (2) 本市の治山ダム及び砂防ダムについて、以下を問う。
  - ア 現在建設中のダムはそれぞれ何か所か。
  - イ 市民からの要望に対する対応は。

---

## 8 佐々木照彦（志高会）

### 1 時代に対応した新しい生活スタイルについて

- (1) 令和2年9月に策定された第2期周南市まち・ひと・しごと創生総合戦略において、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を進めていく中で、暮らし方や働き方などが大きく変わり、「ひと」と「経済」の地方への分散や社会全体のデジタル化に向けた取組の加速化が必要であると記されている。そこで、以下を問う。
  - ア テレワークについて、問う。
    - (ア) 市内における取組は。
    - (イ) 市内事業者のテレワークの取組状況は。
  - イ ワークেশョンやブレジャーについて、問う。
    - (ア) 関係人口を考える上で、どう捉えているか。
    - (イ) 本市の現状と今後の取組は。

### 2 農林水産物の販路拡大について

- (1) 農林水産業者の減少や高齢化が進み、次の担い手の確保・育成が重要である一方、生産者が安心して出荷できる流通販売の仕組みづくりも必要である。そこで、以下を問う。
  - ア 道の駅ソレーネ周南等における地産地消の取組は。
  - イ 公益財団法人周南地域地場産業振興センターや地域商社やまぐち株式会社と連携した地産外商の取組は。
  - ウ 学校給食への使用拡大は。

### 3 再犯防止について

- (1) 令和3年3月に第4次周南市地域福祉計画と一体的に周南市再犯防止推進計画が策定された。本市の取組を問う。

---

## 9 小池一正（公明党）

### 1 健康寿命の延伸に向けた取組について

- (1) 国保データベース（KDB）システム活用状況は。
- (2) 生活習慣病重症化予防事業等について、以下を問う。
  - ア 糖尿病性腎症重症化予防事業の進捗状況は。
  - イ 高齢者の多剤併用を整理するポリファーマシー対策事業に係る本市の取組は。
- (3) 国民健康保険被保険者対象者の特定健康診査について、以下を問う。
  - ア 特定健康診査の受診状況と健診の結果から、特に重視すべきことは何か。
  - イ 特定保健指導の実施状況は。
- (4) がん検診の受診状況とがん疾患の罹患傾向などで特に重視すべきことは何か。
- (5) フレイル予防対策である高齢者の低栄養防止・重症化予防事業に係る本市の取組は。
- (6) 本年4月より中学校の保健体育の教科書が改訂され、がん教育が本格的に始まったが、本市の取組は。

---

## 10 小林雄二（周南市民の会）

### 1 全国学力・学習状況調査と学校教育について

- (1) 令和2年4月16日に実施が予定されていた「令和2年度全国学力・学習状況調査」は、新型コロナウイルス感染症に係る影響を考慮し、実施されなかったが、各教育委員会や希望した学校等に調査問題・解説資料が配布されている。この学力・学習状況調査を参考にする、教科ごとの課題は何か。また、生活習慣や学習環境における特徴や課題は何か。
- (2) 子供たち一人一人の確かな学力の定着と向上には、学校の組織力の充実、教員の授業力の向上、学校・家庭・地域の連携力の強化が重要と考えるが、どのようにこれからも取り組んでいくのか。

### 2 新型コロナウイルス感染症とワクチン接種状況について

- (1) 県内の新型コロナウイルス感染症の拡大が報告されており、医療現場のさらなる負担も予測される。適切な医療体制は確保されているのか。
- (2) 本市におけるワクチン接種計画の進捗状況はどうか。また、職域接種はどの程度進んでいるのか。
- (3) ファイザー製ワクチンの山口県全体の納入予定が厳しいものとなっていると、8月11日付で市ホームページに掲載されているが、全力を挙げて確保に向けて強く働きかけてもらいたい、どうか。

### 3 ヤングケアラーの支援について

- (1) ヤングケアラーの背景には、少子高齢化や核家族化の進展、共働き世帯の増加、家庭の経済状況の変化といった様々な要因がある。全国の市町村要保護児童対策地域協議会に加え、このたび初めて子供本人及び学校を対象とした全国規模の調査研究事業「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」において作成された報告書によると、世話をしている家族がいると答えた子供は、中学2年生で5.7%だったと報告されている。厚生労働省・文部

科学省の副大臣を共同議長とする「ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム」の取りまとめが令和3年5月17日に報告され、今後取り組むべき施策として、早期に発見・把握すること、ヤングケアラーやケアを必要とする家族に対して必要な何らかの支援策が掲げられており、とりわけ、2022年度から2024年度までの3年間の社会的認知度の向上の集中取組期間とされている。本市においてもヤングケアラーの実態を把握し、認知度向上のための啓発活動を実施すべきと考えるが、どうか。

---

## 1 1 江崎加代子（公明党）

### 1 生理の貧困について

(1) 経済的な理由で生理用品を購入できない女性や女の子がいるという生理の貧困への本市の取組について、以下を問う。

- ア 公共施設での取組はどうか。
- イ 学校施設での取組はどうか。

### 2 学校生活について

(1) G I G Aスクール構想の実現に向けたタブレット端末の整備について、以下を問う。

- ア 児童生徒の使用状況はどうか。
- イ 故障への対応など、デバイスケアはどうか。
- ウ 校内の無線LANの整備状況はどうか。

(2) 部活動について、以下を問う。

- ア 部活動指導員の配置状況はどうか。
- イ 部活動の地域指導者の活動状況はどうか。
- ウ 今後の部活動の在り方をどのように考えているのか。

(3) 学校と保護者の連絡体制について、以下を問う。

- ア 欠席の連絡はどのようになっているのか。
- イ 夜間や休日などにおける緊急時の連絡体制は、どのようになっているのか。

(4) 教育現場における医療的ケア児への支援体制は、どのようになっているのか。

### 3 ヤングケアラーについて

(1) ヤングケアラーについて、本市の取組と相談支援体制はどうか。

### 4 生涯学習講座について

(1) 内容について、以下を問う。

- ア 講座の内容はどのように決めているのか。
- イ 新規講座の周知はどのようにしているのか。
- ウ デジタル化の進展に伴い、高齢者のスマートフォン保有率も高くなってきている。使い方講座の開催を検討してはどうか。

---

## 1 2 古谷幸男（自由民主党周南）

### 1 徳山駅前地区第一種市街地再開発事業について

(1) 本年3月24日開催の中心市街地活性化対策特別委員会で報告のあった徳山駅前地区市

街地再開発事業・計画概要についての説明では、徳山駅前賑わい交流施設から徳山駅東側駐輪場屋上庭園は、デッキで接続するとのことであった。この計画では、同施設の1階部分にある店舗や近隣施設への利用者の動きや流れが阻害されることが懸念される。そこで、以下について問う。

ア 交流施設と屋上庭園をデッキで接続するという計画は、いつ決定したのか。また、この計画に市はどのように関わったのか。

イ デッキの管理者は誰か。また、維持管理費はどの程度になり、誰が負担するのか。

ウ デッキが接続されれば、近接するまちのポートへの人の流れが抑制されるのではないのか。まちのポートの在り方について、市はどのように考えているのか。

## 2 鹿野総合支所整備とその跡地について

(1) 鹿野総合支所整備の進捗状況について問う。

(2) 跡地の整備に係る観光振興プランの作成は、どのように進めているのか。地域の夢プランとの関わりはどうなるのか。

---

## 1 3 土屋晴巳（アクティブ）

### 1 市民の活躍を祝う懸垂幕の設置について

(1) 本市では社会体育の振興・発展を図るため、全国大会へ出場する個人または団体に対して祝い金を交付している。その大会において優勝した場合には、その活躍を市民に広く周知するとともにその活躍を祝うために、市役所本庁舎に懸垂幕の設置を提案するが、市の見解は。

### 2 災害時等へのドローン導入について

(1) 本市は山口県産業ドローン協会と災害時における協定を締結している。そのことを踏まえ、以下を問う。

ア 協定に基づき、災害等にドローンを使用した支援活動を要請した実績はあるか。

イ 災害時等のドローンの活用については、民間委託の方向性にあるが、本年7月から山口市消防本部ではドローンが導入されたと聞く。昨今の災害の甚大性、広域性を考慮すれば、委託とは別に市としてドローンを導入し、被害状況等の迅速な把握に努める必要性を感じる。そのことが、市民の命と安全を確保するための効果的対応につながると考えるが、市の見解は。

### 3 新しい休日夜間急病診療所について

(1) 本市は一次救急医療体制として、周南市休日夜間急病診療所を設置しているが、老朽化により新しい休日夜間急病診療所が新築移転され、10月から診療開始となる。そこで、以下を問う。

ア 内科の夜間・休日の、1日当たりの受診者数は。

イ 外科は休日のみの開設であるが、1日当たりの受診者数は。

ウ 現在の内科及び外科の出務医師の状況は。

エ 新しい休日夜間急病診療所は、瀬戸見町に開設され、利便性が格段に向上される。また、周南地域の高次機能病院である徳山中央病院の近くでもあり、今以上の利用が推測

されるが、市の考えは。

- (2) 全国的な医師不足、特に山口県は若い勤務医師が減少傾向にあると聞く。また開業医も高齢化が進んでいる。このような状況から休日夜間急病診療所の在り方について、以下を問う。

ア 一次救急医療体制の構築は市の責務であるが、その体制は各市において異なる。本市としては将来的にも現状と同様に夜間と休日両方に対応する体制を維持するのか。また、そのための絶対条件は何か。

イ 医師不足、開業医の高齢化という避けては通れない現実を踏まえると、将来的にも市民の安全安心を維持するためには、休日夜間急病診療所の運営について、周南地域休日・夜間こども急病センターのような下松市、光市を含む広域化運営を検討する時期に来ていると考えるが、市の見解は。

---

## 1 4 金子優子（公明党）

### 1 通学路の安全対策について

- (1) 本年6月に起きた小学生5人が死傷した事故を受け、国では9月末を目途に全国の小学校の通学路の合同点検の実施をするよう通知したが、本市の対応は。
- (2) 周南市通学路総合安全プログラムに基づき実施している安全確保のための取組について、以下を問う。
- ア 保護者や地域の声をどのように吸い上げて反映しているのか。
- イ 災害時に危険な場所や、大雨による道路の冠水が頻繁に起こる箇所への対応は。
- ウ 老朽化等により一灯式信号機が撤去された箇所への対応は。
- エ 子供の目線での点検はできているか。
- (3) 通学時に見守るための新たな仕組みづくりも必要だと思うが、本市の考えを問う。

### 2 コロナ禍における福祉施策の取組について

- (1) 高齢者の健康と孤立防止の取組は。
- (2) DV等で支援が必要な市民への対応は。
- (3) 自殺防止対策の取組は。

### 3 若者・女性の活躍推進について

- (1) 女性雇用マッチング事業は終了したが、今後の女性活躍推進を目標とした女性就労の展開は。
- (2) 若者の移住定住促進のために、市営住宅の活用を検討してはどうか。

---

## 1 5 長嶺敏昭（参輝会）

### 1 漢陽寺庭園が国の登録記念物（名勝地関係）に登録されることについて

- (1) 作庭から50年が経過し、これまでも国の名勝に指定される可能性について話題にしてきたが、まずは本市初の国の登録記念物に登録される運びとなった。登録に至るまでの経緯や官民による運動はどうであったか。
- (2) このたびの登録を本市の観光やシティープロモーションに生かしていくために何かでき



ることではないか、以下を問う。

ア 登録記念行事は考えているのか。

イ 文化財の登録制度は、指定制度よりも緩やかな保護措置を講じる制度とのことだが、どのようなことが想定されるのか。

ウ 前例からも重森三玲氏監修の庭園として、今後、国の名勝に指定される可能性についての見解はどうか。

エ これまでも市内で展開された巨大写真展や講演会等を市外でも開催し、PRに努めてはどうか。

(3) これから秋の紅葉シーズンを迎えるが、昨年も行楽客の車で渋滞が発生する状況であった。脚光を浴びることに伴い、これまでに倍する市の協力が必要と思ひ、以下を問う。

ア 駐車場への経路案内と案内看板の設置は十分か。

イ 周辺には例年草刈りが必要な広い遊休市有地があるが、これらを埋立整地、舗装して新たに駐車場を整備してはどうか。

ウ 時期によっては、整理人員の配置も必要ではないか。

(4) 漢陽寺・潮音洞をはじめ、付近は平成の名水百選として景観一体のものであるが、清流通りは整備から30年経過し、水車小屋、かやぶき屋根、池に架かる橋・欄干、歩道インターロッキング、民家との仕切り板壁が腐食、欠損するなど、甚だ老朽化して危険である。この際、観光客増を見越してきれいに再整備してはどうか。

(5) 新たな場所に訪れたとき、最初に出会う人の印象がその場所の印象になると聞く。また、景観についての第一印象も重要と考える。おもてなしの心の醸成と環境整備について、以下を問う。

ア 地域の植栽を続ける高齢者グループの活動等を子供たちに伝えることは、おもてなしの心を育てることにつながると考えるがどうか。

イ 景観形成重点地区として、地区内に点在する空き家や空き店舗は景観上好ましくないと考える。そこで、観光の視点から空き家対策は考えられないか。

ウ 新たな観光パンフレット作成や観光ボランティアガイドの養成、情報発信等について、今までの取組を継続するとともに、新しい展開はできないか。

(6) 鹿野総合支所跡地の整備は「日常をときほぐす観光」の拠点として、自然や庭園文化の情報発信の地としての取組が必要ではないかと考える。そこで、以下を問う。

ア 重森三玲氏ゆかりの作庭家の監修により石庭を築くなど、清流通り一帯においては東西で調和の取れた景観の創造を提案するがどうか。

イ 観光客に喜ばれ、ネットや口コミで好感度が拡散していく施設として、景観にマッチしたデザイン性、機能性を備えた話題性の高いトイレなどの休憩施設整備が必要だと考えるがどうか。

## 2 教育行政について

(1) 鹿野地域での小中一貫教育が目指すものは何か、以下を問う。

ア 教育施設の維持管理経費削減が大義であってはならないがどうか。

イ この一貫教育で行われる教育により、薫陶を受けた子供の学力向上をはじめ、他とは

違う義務教育課程となり、子育て世代をはじめ他地域からも注目される独自教育の地となることを望むがどうか。

ウ 同一敷地内であったという環境であるからできることだが、同居となると小学生と中学生では大きなギャップがあるように思える。乗り越えなければならない課題に挑む初めての試みとなるが、理念を共有した教職員のチームワークが大事と考えるがどうか。

(2) 鹿野中学校の空き教室等の活用は、地域開放による生涯学習施設にとどまることなく、サテライトオフィスなど、企業誘致にも柔軟に対応して情報発信をしてはどうか。

(3) 小学校開校150周年事業の計画が進められているところもあるようだが、明治初期から今に至る大変大きな節目を迎えるに当たり、市の見解を問う。また、市の支援は考えられないか。

---

## 16 福田健吾（志高会）

### 1 教育行政について

(1) 教育長の考えについて、以下を問う。

ア 主体的な学びとは。

イ 個性を伸ばす教育に対する課題は。

ウ 中学校における調査書の取扱いの現状と課題は。

エ 小1プロブレムに対して新たに5歳の園児への教育プログラムを、2022年度から文部科学省がモデル事業をスタートしようとしているが、このことについてどう考えているか。

オ 新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中で、以下のことについて問う。

(ア) リモート授業に対する考えは。

(イ) 部活動に対する考えは。

---

## 17 魚永智行（日本共産党）

### 1 新型コロナウイルス感染症対策の拡充について

(1) 感染拡大を抑えるためにはPCR検査の対象を大幅に広げて実施することが必要と考え、以下を問う。

ア 誰でも身近なところで、自己負担なく検査が受けられるようにするために、広島県が広島市内等で実施したPCR検査薬局モニタリング事業を参考に、町なかの薬局で、無料で検査キットを配付する体制をつくってはどうか。

イ 医療機関や民間の機関で実施しているPCR検査の自己負担分を市が助成し、無料としてはどうか。

ウ 小中学校における感染防止のためのPCR検査について、以下を問う。

(ア) これまでにどのような取組をしてきたか。

(イ) 感染力が強いデルタ株による子供への感染が広がっているという状況も踏まえ、新学期開始前後などには全児童生徒を対象としたPCR検査を実施するなど、PCR検査の拡充が必要になっていると考えるがどうか。

- (2) 新型コロナウイルス感染症について、本市の国民健康保険制度において被用者を対象としている傷病手当金を事業主にも支給できるようにするべきではないか。

## 2 本市の文書編集保存規程の運用について

- (1) 電子データを活用すれば、保存できる量も期間も大幅に増やすことができる時代にふさわしく、できるだけ多くの資料を永年保存とすることを提案し、市長の見解を問う。
- (2) 電子文書データは、クラウド上の民間企業のデータセンターに保存される仕組みになっているが、漏えいや流出の対策は万全か。また、市はその体制のチェックをどのようにしているのか。

## 3 市民の暮らしを支える市政を進めるために

- (1) 生活困窮者等の発見・支援のためには、例えば、水道、ガス、電気など、ライフラインに関わる料金の滞納などの情報を事業者と行政が共有し、対応することが有効と考えるが、本市での取組状況はどうか。
- (2) 滋賀県野洲市では、市民の生活の困り事を解決し、自立を促し、生活再建に向けた支援を行うことは市の重要な役割であると位置づけて、「野洲市暮らし支えあい条例」を制定している。条例では生活困窮者等の発見と支援、見守りネットワークの構築などについての規定があり、本市においても大いに参考にして、取組を進めていただきたいと考え、市長の見解を問う。

## 4 公立学校教員への1年単位の変形労働時間制の導入について

- (1) 現場の教員から導入について反対する意見が上がっていると思うが、どう受け止めているか。また、反対の声があっても制度導入のために本市の周南市立学校教員の勤務時間、休暇等に関する規則を改定するのか。

---

# 18 細田憲司（アクティブ）

## 1 大雨・豪雨対策について

- (1) 近年、想定外の大雨・豪雨による災害が多発しているが、本市の災害への対応について、以下を問う。
- ア 本年7月にも遠石地区で大雨による床上浸水があり、近隣住民や通勤・通学にもかなりの影響が出た。市内各所で水はけの悪い場所が数か所見受けられるが、その把握状況と対策はどうか。
- イ 夜市地区や久米地区の河川は豪雨時に何度か氾濫しているが、その対策は。
- ウ 降雨量に対して排水が追いつかないのであれば、根本的な改善が必要ではないのか。

## 2 本市の建設発生土の処分状況について

- (1) 本年7月に、熱海市での土石流災害で二十数名の尊い命が失われたのは記憶に新しい。本県も各地で盛土状況などの調査を始めたと聞くが、本市の状況について、以下を問う。
- ア 本市の公共工事における建設発生土の処分状況はどうか。
- イ 建設発生土の処分は適切に行われているのか。

## 3 通学路危険箇所における児童生徒の安全確保について

- (1) 県道142号久杉高水停車場線の通学路危険箇所対策について、以下を問う。

ア おとし、車道へポールが設置されたが、この対応により道幅がさらに狭くなり、子供たちが危険な状況にさらされている。重大事故を未然に防止するため、道路を拡幅し歩行者専用道路を造ることはできないか。

イ 危険箇所については、地元有志による自主的な見守り活動によって通学時の安全確保を行っているが、この状況が続くのであれば、所管の教育委員会・学校との連携により安全対策を講じるべきではないか。

ウ 本道路には、ほかにも排水路の蓋がない箇所や転落防止の柵がないなど危険な場所があり、併せて安全整備ができないか。

(2) 本市全体の通学路危険箇所について、現在把握している危険箇所はどの程度あり、その対策と進捗は。

---

## 19 藤井康弘（アクティブ）

### 1 子供たちに対する新型コロナワクチン接種の普及について

(1) 最近、アメリカの疾病対策センター（CDC）は、新型コロナウイルスのデルタ株は、①感染力が非常に強く、1人の感染者から、8人から10人に感染する水痘と同じくらいの感染力があること、②また、ワクチンを2回接種していても感染するブレークスルー感染の可能性があること、③加えて、ワクチンを接種していれば感染しても軽症か無症状で済むが、ほかの人に感染させるリスクはワクチン未接種者と同様であること、④したがって、ワクチン接種完了後もマスク着用を継続する必要があること、⑤さらに、従来の新型コロナウイルスよりも重症化するおそれがあることを発表し、ウイルスとの闘いに変化が起きたことを認めるべきだとの見解を表明した。そこで、既にデルタ株が主流になっている日本でも、コロナ対策の戦略を見直す必要があるが、特に、子供たちへのワクチン接種の普及が重要な政策課題となる。なぜなら、上記の②、③によれば、ワクチン接種によって免疫ができた人でも感染して人に感染させる可能性があることになり、デルタ株については、目標とされてきた7割程度の接種率では集団免疫を獲得できない可能性が高いと言えるので、大人のワクチン接種を進めて集団免疫を獲得すれば、たとえ子供たちのワクチン接種率が低くても、ワクチン未接種の子供たちをウイルスから守ることができるという当初の戦略が成り立たなくなってしまうからである。この点で憂慮されるのは、先頃、本市で行われた中学生を対象にしたワクチンの集団接種の希望者が、対象者の5割程度にとどまったことである。その主な原因は、接種後の副反応に対する保護者の不安にあると考えられるが、デルタ株に対しては集団免疫の獲得が困難とすれば、もはや他力本願は期待できず、多少の副反応のリスクがあっても、ウイルスから自分の身を守るためには自らがワクチンを接種するしかないと言える。しかも、最近、子供の感染者が、明らかに増加しており、子供でも重症化するケースが散見される。そこで、変異ウイルスの蔓延によって、ワクチン接種の意義にも重大な変化が生じていることを明らかにすると同時に、ネット上で拡散している医学的根拠のないワクチンに対する誤った情報に惑わされないように、改めて客観的に正しい情報を保護者等に提供して、子供たちへのワクチン接種の普及を図るべきと考えるが、どうか。

## 2 持続可能な新型コロナウイルス感染予防策について

- (1) 本市においても、大人を中心にワクチン接種は進んでおり、少なくとも重症化を防ぐことはできるという点で、ワクチン接種の有効性に疑問の余地はないが、新型コロナウイルスのような呼吸器の感染症は、ワクチンで完全に抑え込むことは極めて困難であることも、我々は、インフルエンザで経験済みである。そうだとすれば、長期的には、新型コロナウイルスも、必ず弱毒化して病原性が低下していくとしても、今後、少なくとも二、三年の間は、感染予防策を続けていかなければならない可能性が高いと考えられる。そこで、必要となるのは、そもそも現実的には不可能なゼロリスクを追求することはやめて、現在行われている感染予防策のうち、医学的に有効性が疑われる感染予防策はやめて、本当に必要な感染予防策に絞ることである。さもないと、これからも感染予防を続けて、ウイルスとの持久戦に耐えることはできないからである。それでは、何が必要不可欠な感染予防策で、何が必要性が乏しい感染予防策かは、感染経路から検討しなければならない。今までは、新型コロナウイルスの主要な感染経路は、ウイルスを含む飛沫を吸い込む飛沫感染とされてきた。しかし、咳などで感染者から排出されて放物線を描いて2メートル以内に落下する飛沫を吸い込むには人間離れした吸引力が必要なので、現実的ではない。また、ウイルスを含む飛沫が付着したドアノブなどに触れることによる接触感染も、ウイルスは人や動物の生きた細胞の中でしか生きていけないので、ドアノブなどの表面に生きたウイルスがいることはほとんどないし、仮に生きたウイルスが付着した手で目や鼻を触ったとしても、それだけでは、結膜炎を起こすようなことはあっても、ウイルスに感染することは医学的にはほとんど考えられない。したがって、新型コロナウイルスの感染経路は、99%、いわゆるエアロゾルによる空気感染と考えて間違いない。だからこそ、空気感染で感染する水痘と同等の感染力があるのである。そうであれば、本当に有効な感染予防策は、マスク装着と3密回避に絞られる。その他の、例えば、頻繁なアルコールによる手指消毒は、必要性に乏しい上に皮膚のバリア機能を破壊する弊害すらあるし、現金に直接触れないようにキャッシュレス化を進めることも、経済政策としては意味があっても感染予防策としては無意味と言ってよい。また、パーティションも、飛沫は防げても、エアロゾルの侵入は防げないので、室内の換気を妨げるような形で設置されていると、ウイルスを含むエアロゾルが中に滞留することになるので、かえって感染リスクを高めてしまう可能性がある。このように、新型コロナウイルスの感染経路が空気感染であることを直視して、本当に有効な感染予防策に絞って、市長が市民に改めて感染予防策への協力をお願いすることこそが、ワクチン接種の推進に併せて、今、ぜひとも必要なことと考えるがどうか。

---

## 20 田村勇一（自由民主党周南）

### 1 防災情報について

- (1) 現状の情報発信体制はどのようになっているか。
- (2) 現状の防災無線と防災ラジオの効果とその検証は。
- (3) 市民が避難の判断ができる、迅速かつ的確で分かりやすい、きめ細かな情報発信ができていのか。

- (4) 避難が必要な市民に、避難を促す強いメッセージが届く仕組みをつくるべきでは。
- (5) 携帯電話・スマートフォンによる情報伝達は、行政と市民の双方にとってメリットがあると思うが、幅広い世代への普及が進む中、緊急時の迅速な情報伝達手段として、さらに活用することはできないか。
- (6) 市民一人一人がハザードマップを点検し、自宅周辺の危険度や避難場所の確認をしておく必要があり、自治体の情報を生かしながら、自ら命を守る行動を取る指導を行政としてすべきでは。

## 2 林業政策について

- (1) 本市の林業に対する見解は。
- (2) これから目指す林業政策は。
- (3) 林道の整備状況は。

---

## 2 1 渡辺君枝（日本共産党）

### 1 コロナ禍に追い打ちをかける利用者への負担増について

- (1) 厚生労働省は、令和3年8月から介護保険施設入所者の食費や居住費の利用者負担段階を見直すことを決めた。その結果、一部の利用者の自己負担額が引き上がることとなった。利用者の負担増について、以下を問う。
  - ア 利用料が高くなった利用者は何人か。
  - イ 利用料が高くなったことについて、事業者や利用者からどのような声が寄せられているか。

### 2 高齢者の補聴器の購入及び補聴器電池代の補助について

- (1) 令和2年3月の会派質問で、高齢者の補聴器の購入及び補聴器電池代の補助について質問した。市長は、県市長会議において、身体障害者手帳の対象にならない高齢者に対し、補聴器を購入する際の補助制度の創設を国などに要望することを承認されたと答弁したが、その後の進捗状況を問う。
- (2) 市独自の補助制度を導入できないか。

### 3 住み続けるための交通網の整備について

- (1) 10月1日からのバス・タクシー運賃助成事業の開始に伴い、その申請会場が、本庁・各総合支所・各支所のほかに、一部の市民センターが臨時申請受付会場となっている。臨時申請受付会場となっていない市民センターも臨時申請受付会場とすることはできないか。
- (2) 岩徳線の利便性向上に向けて、西日本旅客鉄道株式会社に市が要望することを求めたいと考え、以下を問う。
  - ア 午前10時台の列車の増便はできないか。
  - イ 山陽本線と乗り継ぎがしやすいように、ダイヤ改正できないか。
  - ウ 障害者や高齢者などが利用しやすいバリアフリーに対応した駅へ環境改善できないか。
  - エ 勝間駅のホームへ上がる階段の屋根が撤去されたが、屋根を元のように設置するか、ホーム自体に屋根の増設ができないか。

#### 4 ダムに頼らない治山について

- (1) 平成30年7月豪雨で、死亡者の出た熊毛地域は、今年の大雨でも、災害が発生した。被害が出ると、時間もお金もかけて大規模な工事が行われ、砂防ダムや治山ダムが設置されるが、自然の摂理を学び、それを基軸として、長期的な視野で安全対策していく必要がある。これまでの防災対策のように、表面的な対処でなく、環境を傷めない土石流・土砂災害への対策方法をSDGsの時代にふさわしい災害対策として国や県に提案してほしいが、市の考えを問う。
- 

## 2.2 中村富美子（日本共産党）

### 1 永源山公園の芝生管理について

- (1) 芝生に除草剤を使用することについて、安全性等で市民から不安の声がある。使用量について記録を残し、市民の不安を取り除くようにできないか。

### 2 SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた市の取組について

- (1) 国連サミットで採択されたSDGsは、「誰一人取り残さない」ことを理念として、2030年までに達成すべき17の国際目標を掲げている。この中の目標14「海の豊かさを守ろう」について、以下を問う。

ア 本市が設置しているテニスコートは何か所（何面）あり、そのうち人工芝を使用しているコートは何面あるか。

イ 人工芝はマイクロプラスチックの発生源となり、海洋汚染の原因になる。利用される過程で破片となり、その破片が降雨などにより流されているものと考えられるが、海や川に流れ出ないよう対策はしてあるか。

ウ SDGsの目標達成に向けた取組の姿勢を示すために、まず、本市で最も規模の大きい緑地公園内のテニスコートは人工芝以外のもので対応できないか。

### 3 学校に行きたくても行けない子供たちについて

- (1) ヤングケアラーについて、幼いきょうだいの世話や病気、障害のある家族の介護をしている子供、ヤングケアラーが、中学校・高校の1クラスに約2人の割合にいるという国の調査結果が発表された。本市は実態を把握しているか。していなければ実態調査を行い、支援につなげていかななくてはいけないと思うがどうか。
  - (2) 新型コロナウイルス感染症について、基礎疾患があり、感染を防ぐため学校に行きたくても行けない児童生徒がいるかどうか実態調査はしているか。
  - (3) 本来の学習を保障するため、多様な子供の状況に応じたきめ細かな対応が求められるが、本市ではどうか。
- 

## 2.3 島津幸男（周南市民の会）

### 1 指定管理者制度に対する市の考え方について

- (1) 本市の指定管理者制度の実態とその効果は。
- (2) 地方自治法第244条の2にある市の関与の在り方と第三者モニタリングの導入等を問う。

## 2 道の駅ソレーネ周南のマネジメントについて

- (1) 道の駅ソレーネ周南に求められる目標と、その達成度を問う。
  - (2) 現在の問題点と、その改善策を問う。
  - (3) 防災道の駅に選定されたが、今後の具体的な対応策を問う。
  - (4) 中期経営戦略として、例えば、六次産業化、CO<sub>2</sub>の削減、水素都市、児童公園、ドローンの活用等を「ソレーネの進化と独自性」とし、市としてどのようにはかるか。また、熊毛地域を含めた活用を検討してはどうか。
-